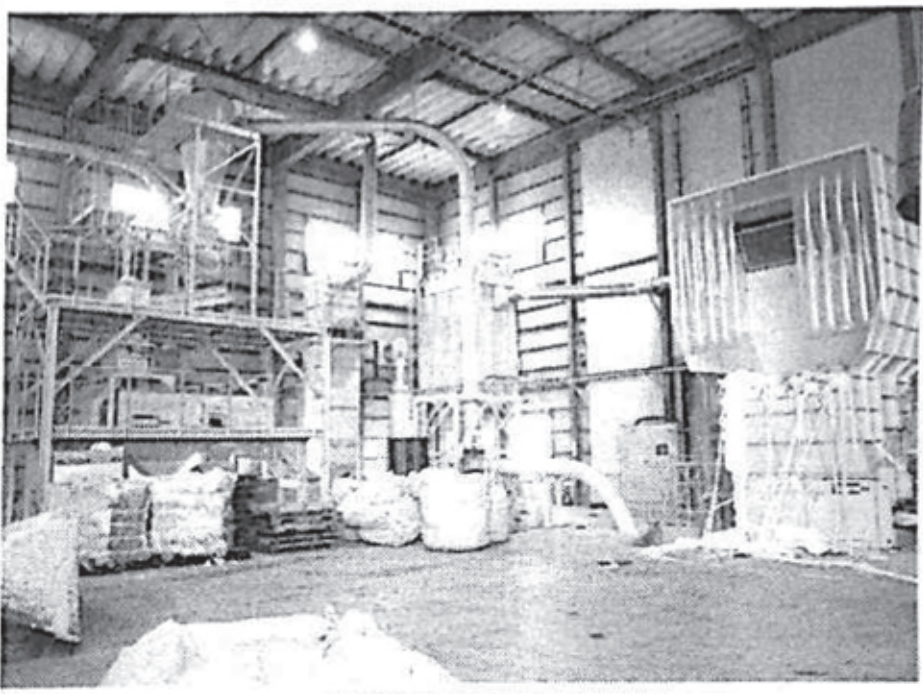


16t/日、生産能力3倍に

RPF新工場を本格稼働



北上市南部工業団地に工場を新設した



RPF製造プラント

いる工場系廃棄物をメ
インに使用している。
分別された状態で回収
した廃プラスチックや
木くずなどはRPF工
場に直接搬入するが、
仕分けが必要なもの
は、市内にある同社の
別工場で作業で選別
してから、RPF工場
に運び込む。こうした
事前選別の徹底によ
り、塩素濃度3000
ppm以下のRPFを安定
的に生産、製紙会社に
供給している。

北日本環境保全（岩
手県北上市、中道法子
社長、☎0197・6
5・3166）は、新
設したRPF（産業廃
棄物を主体とした固形
燃料）工場の本格稼働
を始めた。1日当たり
（8時間稼働）の製造能
力は、既存工場の3倍
以上となる16tになっ

た。すでに12・13tの
RPFを製造しており、
初年度は3540tの
生産を計画している。
同社では、焼却処理
の脱却という考えの下、
1998年から廃プラ
スチックや木くずを原
料とした固形燃料化事
業に取り組み始めた。
廃棄物処理業者が固形

燃料の製造を事業化し
たのは、東日本地域で
は同社が初めてだった
という。操業から14年
たち、プラントの老朽
化が進んだため、新工
場の建設を決めた。
新工場は、北上市の
南部工業団地に構え
る。国道4号線や東北自
動車道の北上金ヶ崎イ

ンターチェンジのそば
でアクセスに優れてい
る。工場には、一軸破碎
機、回転式磁選機、アル
ミ選別機、振動ふるい、
定量供給機、成形機など
からなるリサイクルラ
イン一式を導入した。
供給するRPFの品
質を保持するため、排
出元が明らかになって

同社は1976年、
浄化槽管理業を事業と
して創業した。現在は、
産業廃棄物と一般廃棄
物の収集運搬・中間処
理の他、計量証明や建
築物飲料水貯水槽清
掃、管工事、下水道管
渠のテレビカメラ調
査、止水工事などの事
業も展開している。